

Interview with

Junichi Sugawara

自分の役割は 地域のネットワークを 作ること

地域医療支援部門 菅原 準一 教授



“「津波被災地で産後うつが多い」という傾向が2012年の我々のアンケート調査からわかりました。(このアンケート結果で問題が見えた)震災を挟んだ時期に出産した母親のメンタル状況は、薬で解決する問題ではなく、「(震災後に特有の背景など)個々がおかれた背景を含めて推定原因別に分類し、改善方法を考えなければ。」そう思いました。

産後うつは様々な種類があり、これらを群分けして関連窓口へ導く仕事を、地域の保健師さんや助産師さんと一緒に、患者さんの個々のニーズや価値観に合わせた草の根ネットワークを作って行うことが大事です。

被災地域の復興を担う世代を幅広くサポートしたいと願っています。

今後アンケートで得られた情報を地域の病院や医療人へ還元し、産後うつ病のリスクが高い方々をケアする活動を、ToMMoの枠組みの中で、地域支援センター(今後設置予定)を拠点に行う考えです。

私はToMMoでは被災地の価値観とニーズに添った視点で地域医療支援を行い、またゲノムコホートから得た最先端医療を周産期診療に持ち込みたいと思っています。

十年後には必ずこの事業は成功すると思っています、絶対に。”

2012年4月23日インタビューから再構成、インタビューの全体、調査の詳細についてはToMMoウェブサイト参照
<http://www.megabank.tohoku.ac.jp/majorresults/01.html>



Profile

菅原 準一 Junichi Sugawara

東北大学医学部卒業。米国スタンフォード大学産婦人科ポストドクトラルフェロー、東北大学病院周産母子センター講師、ベルギーリュウベンカトリック大学胎児治療部門研究員、東北大学医学系研究科講師を経て、2012年東北メディカル・メガバンク機構発足に際して地域医療支援部門へ着任し石巻地域を担当。専門は、周産期医学、生殖内分泌学、産婦人科内視鏡手術。